



人間と動物って仲良し？

現在では動物は家族同然で人間と生活を共にしている家庭も多い。そんな動物はいつ頃から人間と生活するようになってきたのか。現在までの経緯を考えてみよう！！

渋谷で待ち合わせと言えばハチ公の像を使う人も多いのではないだろうか。映画にもなったハチについて調べよう。



日本

館

2 階

北IV-13

日本人が育んだ生き物たち



1

犬にとって人間はどんな存在か？

ぼくが何と呼ばれているか知っているかな？



なぜ「ハチ」は有名になったのか？

- ・亡くなった主人の帰りを待ちわびる「忠犬ハチ公」
- ・飼い主を待ち続ける姿が感動的だから
- ・人間のような心を持っているから
- ・単なるペットではない
- ・ペット以上に人間に近い存在

学習指導要領「第2分野目標(3)の生命の尊重、自然環境の保全」にかかわって、人間を中心に、日常生活と身のまわりにみられる動物とのつながりを改めて考えさせたい。

日本

館

2 階

IV-13

日本人が育んだ生き物たち



2

他にも人間と関わりのある動物を探せ！！



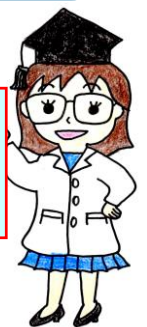
ウシやネズミなどの動物は人間とどのように関わってきたか？

- ・自分たちの生活に役立てるために野生生物の特性を生かして改良し、栽培植物や家畜などとして育ててきた。
- ・ウシ 在来家畜、使役動物
- ・ジャコウネズミ 実験動物
- ・ウマ 軍事利用、通信手段、農耕手段としても広く利用

ジャコウネズミ ネズミ類とは異なる生物学的特性を持つものとして日本で育種開発された代表的な実験動物

学習指導要領「第2分野目標(3)の生命の尊重、自然環境の保全」にかかわって、日本の自然環境や文化に愛着と誇りを持つことができるよう動物とのかかわりを考えさせたい。

家庭で生活している動物とは異なる形で人と関わってきた動物を知ろう！！





3 人間にとって動物、動物にとって人間はどんな存在か？



- ・犬は、猟犬や番犬という使役動物としてのやくわりもあるが、ペットとして人との愛情により結びつけられている。
- ・縄文時代の埋葬された犬 ほとんどが丁寧に埋葬されており大切に育てられていたことがわかる。人と合葬された例もある。
- ・弥生時代のイヌの出土状況 埋葬されたイヌは少なく、イヌを食べることも始まった。

家畜のうちもっとも古いものはオオカミから育種改良されたイヌで、猟犬や食用として広く利用されてきた。家畜としてのイヌの歴史は2万年に及ぶ

動物にとって人間とはどんな存在だったのか動物の気持ちになって考えよう。



人間と動物の関わり方を知ってこれからのお互いの在り方について考えてみよう



感じたこと

わかったこと

考えたこと

- ・開発や伐採、捕獲などが原因で、多くの生き物たちが滅び、多様性が失われつつある。
- ・環境保全事業：生息環境の維持
- ・保護増殖事業：生物種そのものの維持

外来生物 在来生物の生育環境を奪ってしまうなど、地域の自然環境に大きな影響があり、生物の多様性を脅かす生物を「侵略的外来生物」といい大きな問題となっている。



※

学習指導要領 第2分野（7）「自然と人間」日常生活や社会と、人間にとっての動物との関わりについて考えさせたい。飼育動物を「家畜」や「ペット」と位置付けることもあるが、例えば「共に生きる伴侶」としても重要な役割を果たすことがある。また、動物との関わりが人間の健康の質を向上させる「アニマルセラピー」など、動物療法などがあったり、動物を介して人間同士の協調性や自立、言語活性化などの社会性を向上させるトレーニングなどもあったりする。野鳥や野生動物も含めて、人間生活と動物とのより良い関わり方について考えさせたい。

年

組

番

氏名